

NEWS LETTER

2022/09

vol.13

CONTENTS

- ・ダイバーシティ推進室ニュースレターをリニューアルしました
- ・育児サポートの制度をぜひご利用ください
- ・女性研究者メンター制度とWeb相談窓口について
- ・菊池理事と事務職員との懇談会を開催しました
- ・女性研究者への支援をしています
- ・ワーク・ライフ・バランスのため、研究者への支援をしています
- ・ちょこっとコラム「ホッと安心できた瞬間」

NEWS

ダイバーシティ推進室ニュースレターをリニューアルしました



2017年1月の創刊号から12号の前号までのイメージをリニューアルして今号よりお届けいたします。新表紙はダイバーシティ(多様性)の観点から、様々な色、見る方によって様々に見えるかたち、イメージを大切にしていきたいという想いを込めたデザインにしています。

菊池あしな理事(ダイバーシティ/国際/SDGs担当)・木村美智子ダイバーシティ推進室長を中心に、引き続きお互いの個性が尊重されて、学生・教職員それぞれの能力が十分に活かされる、ダイバーシティ環境が整っている大学づくりを進めます。

また、これまで同様イバダイ・ビジョン2030に基づくアクションプランや一般事業主行動計画の達成を目標としながら、様々な取組を行っていく予定です。

ワーク・ライフ・バランス

育児サポートの制度をぜひご利用ください

ダイバーシティ推進室では、仕事と育児の両立支援の取組の一環として、下記2つの託児補助事業を実施しています。各事業の詳細については、ダイバーシティ推進室HP([こちら](#))をご確認ください。

・託児利用料補助事業

休日勤務や病児・病後保育などで託児サービスを利用する場合の利用料を一部補助する制度です。託児事業者の指定はありませんので、利用者のご都合に合わせて選択していただけます。

・ベビーシッター派遣事業割引券

割引券を使用してベビーシッターサービスを利用する場合の利用料を一部補助する制度です。



研究者支援 女性研究者メンター制度とWeb相談窓口について

本制度は妊娠・出産・育児や介護などのライフイベントと研究の両立で悩む女性研究者（メンティー）のために、指導や助言を行い、相談に応じる者（メンター）を配置するもので、メンティーが自発的な解決に向けてメンターの支援を得ることを目的としています。メンターはダイバーシティ推進委員会の教員で構成されています。

令和4年度 女性研究者メンター（相談員）

部局名	職名	氏名
人文社会科学部	准教授	長田 華子
教育学部	教授	佐藤 裕紀子
理学部	准教授	飯沼 裕美
工学部	准教授	王 瀟岩
農学部	准教授	浅木 直美
全学教育機構	教授	池田 庸子

また、ダイバーシティ推進室では教職員の仕事と育児・介護の両立、キャリア形成などの相談をダイバーシティ推進室HPのWeb相談窓口から受け付けています。

詳細などについては[こちら](#)をご覧ください。

<https://www.ibaraki.ac.jp/diversity/consultation/index.html>



イベント 菊池理事と事務職員との懇談会を開催しました

今年度よりダイバーシティ担当理事として就任された菊池理事とダイバーシティ推進委員・ダイバーシティ推進室担当事務職員との懇談会を実施しました。

大学で事務職員として働く環境、モチベーションの維持、育児や介護との両立など、様々な方面から意見を交換しました。



*右から杉山委員（学務企画課）、堀江委員（総務課）、木村委員（研究推進課）、菊池理事、梅田課長補佐、堀口室員、會田室員（人事労務課/ダイバーシティ推進室）

研究者支援

女性研究者への支援をしています

・女性エンパワーメント支援制度

教育・研究・社会貢献の分野において活躍が認められ、より高い研究力・指導力向上を目指す女性研究者を顕彰し、研究費を助成する制度です。本研究制度をインセンティブとして、女性研究者が国内外において活躍するリーダーに成長することを期待しています。今年度は助成額を1人あたり上限30万円として利用者を募集しました。

◇令和4年度「女性エンパワーメント支援制度」採択者一覧

所属	職名	氏名	研究テーマ
教育学部	教授	齋木 久美	茨城地域書道史の研究と広報
教育学部	准教授	池庄司 規江	多様性のなかの言語教育 ーオランダ・フリースラント州を事例にー
理工学研究科(理学野)	教授	野田 悟子	昆虫由来乳酸菌のゲノム解析
理工学研究科(工学野)	助教	福村 真紀子	地方観光地における外国人労働者の日本語学習についての調査研究
理工学研究科(工学野)	講師	山内 紀子	ウイルス濃縮のための糖鎖固定化磁性ポリマー粒子の開発
農学部	准教授	浅木 直美	根系形態の異なるイネにおける畑条件下の肥料由来窒素吸収とN ₂ O発生特性

研究者支援

ワーク・ライフ・バランスのため、研究者への支援をしています

・研究復帰支援制度

出産・育児・介護等のライフイベントのためにやむを得ず研究を一時中断し、その度復帰した研究者を対象に、本格的な研究再開のためのスタートアップ支援として研究復帰支援費(研究費)を助成する制度です。今年度は助成費を1人あたり上限25万円として利用者を募集しました。

◇令和4年度「研究復帰支援制度」採択者一覧

所属	職名	氏名	研究テーマ
人文社会科学部	准教授	星 純子	コロナ禍の日台交流 :笠間市のインバウンド誘致、農産物交流を中心に

・ライフイベント研究支援員制度

出産・育児・介護等のライフイベントに直面している研究者を対象に、一定期間ライフイベント研究支援員を配置して、ライフイベントと研究の両立を図る制度です。今年度は助成額を1件あたり9万円として利用者を募集しました。

◇令和4年度「ライフイベント研究支援員制度」採択者一覧

所属	職名	氏名
理工学研究科(理学野)	准教授	諸岡 歩希
理工学研究科(理学野)	准教授	飯沼 裕美
理工学研究科(工学野)	准教授	車谷 麻緒
理工学研究科(工学野)	教授	池田 輝之
理工学研究科(工学野)	准教授	鶴野 克宏
理工学研究科(工学野)	教授	江口 美佳
農学部附属国際フィールド農学センター	准教授	七夕 小百合
全学教育機構	准教授	瀬尾 匡輝

ちょこっとコラム

理工学研究科理学野 飯沼裕美先生の「ホッと安心できた瞬間」



今から18年ほど前、私の研究者人生の誕生秘話を紹介します。33歳で脱サラして期待と不安を胸に大学院博士課程に編入したばかりの私に対し、大学院の学務スタッフは「もの好きね」と言いました。自分の人生は規格外と断定されたようで、悔しくて大泣きしました。

その1か月後、アメリカのブルックヘブン研究所に来て、自らを苦しめた固定観念から解放されていました。そこは、年齢、性別、学生やスタッフを問わず、研究の議論はすべてフラット。偉い先生をファーストネームで呼ぶ世界でした。一番驚いたのは、実験の方法を巡り、私のメンターである中堅研究者同士が、巨体を震わせ泣きながら大喧嘩しているのです、学生である私の前で！

もの好き上等！永遠に純粋な心(子供っぽいとも言う)を堂々と認める世界が、ここにある。私はココで生きていく！と思った瞬間でした。

リクエスト募集!!

ちょこっとコラムのテーマについて、内容・お話しを聞きたい方などリクエストを大募集しています！ぜひダイバーシティ推進室までお知らせください。

■メールアドレス■

diversity_office@ml.ibaraki.ac.jp

茨城大学ダイバーシティ推進室

ダイバーシティ推進室は、平成28年4月に男女共同参画推進室を改称して開設されました。

学内外の意識啓発、ワーク・ライフ・バランス環境整備、研究力向上と女性リーダー育成、次世代育成の活動を軸に、お互いの個性が尊重されて、学生・教職員それぞれの能力が十分に活かされる、ダイバーシティ環境が整っている大学づくりを進めています。